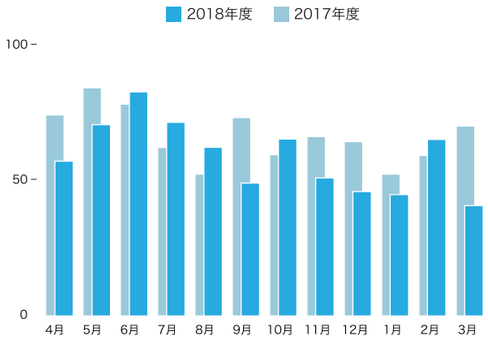
２０１８年度　支援活動報告（データ編）

2018年度のデータ検証の前提

リハビリテーション従事者や特別支援教育関係者など専門職向けの研修に注力して活動しています. 支援技術の知識を持つ専門職を地域に増やす活動を継続中です. 2019年度も引き続きこの方針に沿った活動を予定しています.

月別支援件数の推移



支援件数はすべての相談を合算した数値です. 昨年度からおおむね横ばいで推移しています.
今年度の活動には下のような特徴がありました.

- 年間692件で月平均の相談件数は57.6件でした
- 修学支援をしていた方の就職支援のケースがありました
- 今年度は特別支援学校での活動が増えました

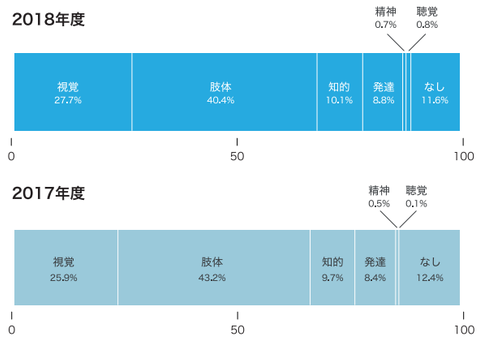
障がい種別の割合

【肢体不自由】 視線入力装置に関するものが増えました. 補装具としての給付も始まり関心が高まっているようです. また知的障がいと肢体不自由が重複しているケースでも視線入力装置に関する相談が増えています. 【視覚障がい】 大学病院ロービジョン外来での機器紹介や新潟県視覚障害者福祉協会とのPC教室は引き続き実施中. 今年度は就労現場での機器操作指導も実施しました. 【聴覚障がい】高等教育機関向けに講義の情報保障についてアドバイスをしました. 【知的・発達障がい】ノイズキャンセリングヘッドホンなど過敏な部分をカバーする装置なども充実させて対応しています.

障がい種別 集計

	視覚	肢体	知的	発達	精神	聴覚	なし
2018年度	201	293	73	64	5	6	84
2017年度	219	366	82	71	4	1	105

(単位：件)



月別支援件数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	56	69	81	70	61	48	64	50	45	44	64	40
2017年度	75	85	79	63	53	74	60	67	65	53	60	71

(単位：件)

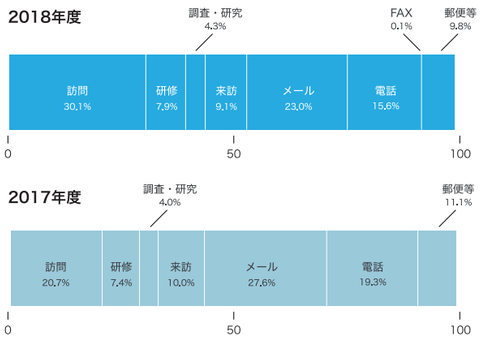
相談方法別の割合

特別支援学校からの依頼が増加したことが影響して, 訪問件数が増えました. それ以外は前年と変わらない傾向です.
研修の割合が2015年度：3.9%, 2016年度：7.1%, 2017年度：7.4%と年々増加傾向にあり, 今年度も7.9%と増加しました. 階層型支援モデルへの転換が進んでいます.

相談方法別 集計

	訪問	研修	調査	来訪	メール	電話	FAX	郵便等
2018年度	208	55	30	63	159	108	1	68
2017年度	167	60	32	80	222	155	0	89

(単位：件)

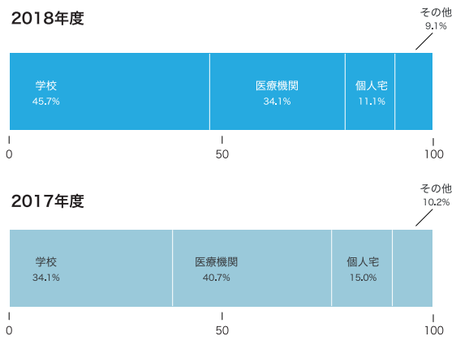


訪問先の内訳

今年度は学校, 特に特別支援学校への訪問が増えました.
【学校】定期的に訪問している学校では支援機器体験会や保護者むけの勉強会を実施しています. 【医療機関】リハビリ同席を中心にセラピストに協力する形での支援機器提案を行なっています. 【個人宅】主に在宅療養をしている難病患者の方への訪問支援をしています.

	学校	医療機関	個人宅	その他
2018年度	95	71	23	19
2017年度	57	68	25	17

(単位：件)



新潟市障がい者ITサポートセンター

アニュアルレポート 2018

ANNUAL REPORT 2018

Addr.：新潟市西区五十嵐2の町8050 新潟大学大学院自然科学研究科内 Phone/Fax：025 - 262 - 7774 Mail：nitsc@eng.niigata-u.ac.jp

NI-IT 新潟市障がい者ITサポートセンター

2018 TOPICS

2018年度 支援活動報告
6つのトッピクスで
1年の活動を振り返ります

特別支援教育

市立小・中学校教員向けICT研修

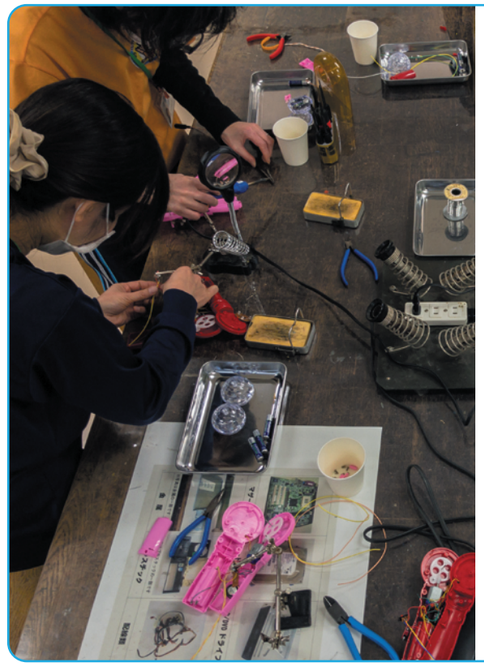
小・中学校の先生向けに支援技術の研修を実施しました. 新潟市の市立学校にはタブレットPCが配備されています. 新潟市総合教育センターでは発達障がいのある児童の事例紹介やタブレットPCを使ったマルチメディアDAISY教科書の実習を行いました.
同様の研修は夏休み期間中, 市内各地の小学校でも行なっています.

個別支援

重度障害者用意思伝達装置のフィッティング等, 個別のケース支援

センター開設当初から病院や自宅を訪問して支援技術のフィッティングなどを行う, 個別ケース支援をしています.
今年度は重度障害者用意思伝達装置の給付に際して医師が意見書を用意するための基礎資料作成を初めて行いました. 利用者さんに実際に機器を使用してもらいながら, 操作のしやすさについて人間工学的な手法で評価を行いました.
また, 障がいのある人が勤めている職場を訪問して, 機器利用の指導も行なっています. 雇用主である企業の意向もヒアリングして, バランスの取れた提案になるよう心がけています.

工作会



教育やリハビリテーションに合った道具を自分でつくる

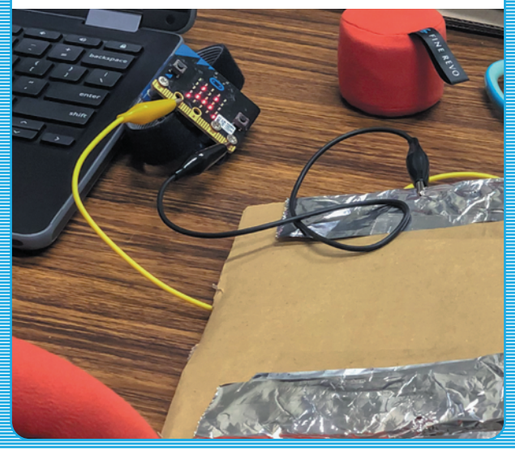
市販のおもちゃを障がいのある子どもたちの遊びや学習に使えるよう改造する研修を実施しています.
高品質なメーカー製の支援機器でも, きめ細かい指導を行う現場にはなじまないことがあります. そんな現場の「もうちょっと」という声に初歩的な電子工作でこたえています. 自分で遊べるおもちゃを手に入れた子どもたちはそこから様々なことを学んでいきます.

参加した学校の先生やセラピスト, 保護者からは授業や家庭での余暇活動で楽しんで使用できた, という感想が寄せられました.

プログラミング

子ども向けプログラミングについて特別支援教育の現場で一緒に考える

2020年度から小学校でプログラミングの授業が必修化されます. 当センターにも特別支援学校から相談が寄せられています. まだ, 教育現場でも模索が続いている段階ですが, 先生たちと一緒に考え始めています. 今年度は教員向けの入門編研修と特別支援学校で実施された試行的な授業のアドバイスを行いました. 一部の障がいのある子どもにとっては自己肯定感につながる取り組みになりそうです.



養成講座1

難病ITコミュニケーション支援講座

新潟県・新潟市難病相談支援センターが主催する難病ITコミュニケーション支援講座に協力しています. コミュニケーションの困難を伴う難病支援に有効な支援機器の紹介や事例紹介, グループワークの指導を行いました.
コミュニケーション確保は療養生活の中でQOLの維持・増進に重要なカギになります. 当センターが個人に対して行なった支援事例を紹介し, より多くの同様の課題を抱えた患者さんの支援に役立ててもらっています.

養成講座2

専門職向け要請講座を作業療法士会・言語聴覚士会と開催

専門職向けの養成講座は階層型支援モデルを構築を目指している今期の最重要事業のひとつです. 今年度も新潟大学五十嵐キャンパスを会場に2日間にわたって開催しました. 生涯ポイント付与も継続して実施しているので, 参加するOTやSTのスキルアップのために活用されています.
24名の参加者からは, 事例が多くわかりやすかった, 今後の臨床に生かしていきたい, 相談できることがわかり心強く思った, などの感想が寄せられました.
障がいのある人たちが定期的に通ってくるリハビリテーションの場に支援技術の知識を持ったセラピストがいる, そんな環境づくりを目指して今後も継続していきます.